修士論文（要旨）
2017 年 1 月

ドラマ手法による日本語コミュニケーション能力の向上
―学習者ビリーフ調査から―

指導　堀口純子　教授

言語教育研究科
日本語教育専攻
214J3008
劉美含

Master's Thesis（Abstract）
January　2017

Improvement of Japanese Language Communication Skills through the Drama Method: Based on a Survey of Learner's Beliefs

MeiHan Liu
214J3008
Master'Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J.F.oberlin University
Thesis Supervisor:Sumiko Horiguchi

目次

第 1 章　はじめに 1
1.1 研究背景, 研究動機づけ 1
1.2 研究目的 2
第 2 章　先行研究 3
2.1　コミュニケーション能力とは 3
2.1.1　コミュニケーション能力の育成に関する研究 4
2.2　ドラマ手法の定義 5
2.2.1　日本語教育におけるドラマ手法 5
2.2.2　ドラマ手法の実践研究 6
第 3 章　学習者調査の結果分析と考察 8
3.1　日本語学習者の動機づけ調査 8
3.1.1　調査概要 8
3.1.2　調査結果 9
3.1.3　考察 12
3.2　日本語学習者の学習者ビリーフ調査 13
3.2.1　調査概要 14
3.2.2.　調査結果 14
3.2.3　考察 20
3.3　ドラマ手法のビリーフ調査 20
3.3.1　調査概要 21
3.3.2　調査結果 21
3.3.2.1　質問 1 の調査結果 22
3.3.2.2　質問 2 の調査結果 24
3.3.2.3　質問 3 の調査結果 25
3.3.2.4　質問 4 の調査結果 26
3.3.2.5　質問 5 の調査結果 27
3.3.3　考察 27
第 4 章　日本語教育への提案 29
4.1　現状と問題点 29
4.2　日本語教育への提案 30
4.3　中国の日本語教育問題の改善 31
第5章　まとめと今後の課題 34
5.1　本研究で明らかになったこと 34
5.2　今後の課題 34

参考文献 36
卷末資料 ..... Ⅰ
日本语学习动机调查 ..... Ⅰ
日本語学習動機づけ調査 ..... Ⅱ
日本语学习情况调查 ..... Ⅲ
日本語学習状況調査 ..... Ⅴ
关于影像教材以及课堂活动活动调查 ..... Ⅶ
メディア教材の利用及び教室活動調査 ..... Ⅷ

要旨

ドラマ手法による日本語コミュニケーション能力の向上
―学習者ビリーフ調査から―

研究背景・目的

今中国の日本語教育現場においては学習環境が整っておらず，学習リソースなども不備である。その結果，中国人学習者のコミュニケーション能力の伸びにはあまりよくない傾向が見られる。中国人日本語学習者のコミュニケーション能力を向上させるために最も適した教授法を探す必要があると考えている。そこで，本稿ではまず，中国人日本語学習者を対象とした調査により，彼らが日本語学習にどのようなニーズを持っているのか，特に日本語コミュニケーション能力を向上させるためには，ドラマ手法が役に立ち，学習者ニーズにも応えられるのではないかと考え，それを検証することを目的としている。

分析結果および考察

本稿は学習しようとする段階の学習動機づけと日本語学習段階における学習者ビリーフの調査を行う。また，ドラマ，ドラマ手法の使用状況について調査を行う。結果は以下のようになる。

日本語学習動機づけ調査から以下のようなことが明らかになった。

- 学習者は日本の文化，習慣など社会全般に関心が高い。日本語，日本の文化習慣を体験したいと期待している。
- 日本語のマンガやドラマなどのサブカルチャーを学習リソースとして積極的に受け入れようとしている。しかし，そうではない学習者もいる。
- 将来のため，活用できる日本語を学習したい。

学習者ビリーフ調査から以下のようなことが明らかになった。

- 学習者が日本文化を重視し，全て教科書に頼るのではなく，非言語なども含め会話中心の授業を求めている。しかし，今の授業ではこのニーズの応えていない傾向が見られる。
- 学習者が著しい「目型」の学習方法を指示しながら，協同学習などコミュニケーション能力を向上する学習ストラテジーを積極的に受け入れ，実用的な日本語を学習したいと考えている。
- 今の日本語学習の学習環境はあまりよくなく，学習リソースが不足している。そのため，学習者の教師にたいする依存性が高い。ほとんどの学習者が日本語のコミュニケーションを向上させるためには，母語と日本語の両方を使うと効率がいいと考えている。

ドラマ手法のビリーフ調査において以下のことが分かった。

- 現在中国の日本語授業で使われている教材は学習者すべての多様性や個別性に対応する

ことは困難である。学習者は特に日本語の実用性を重視している。固い日本語ではなく，若者言葉や生活に近い日本語を学習したいという。

- ほとんどの学習者はドラマを使って日本語の授業を受けたことがない。だが，ドラマを使ってほしいという要望が高い。しかし，ドラマ使用を望まない人もいる。
- ドラマ手法を使って日本語と日本のことを理解してから，日本語のコミュニケーション能力を伸ばしたい。
- 学習者はグループで協同学習することにより，授業の主体になる可能性がある。

以上の結果から，現在，中国の日本語学習者のニーズは多様化するとともに，日本の文化，日本社会，生活習慣などの日本事情について学習したいという要望が高いことが分かった。また，日本語の実用性，コミュニケーション能力を向上することも強く求めている。しかし，現在中国の日本語教育においては，楽観できない現状と問題点が存在している。教員の質の不均衡，ネイティブ教師の不足，時代性が欠如した教材，シラバス，教授法と日本語コミュニケーション能力育成のバランス不均衡などの問題があるという。調査結果により，上で述べた問題は学習者ニーズを満たせないことが明らかになった。さらに，中国の大学における日本語学習者のコミュニケーション能力を向上させるために，ドラマ手法が有効な手段として導入する可能性と必要性があることを明らかにした。

今後の課題

本研究では，学習者ビリーフ調査により，多くの学習者は日本語コミュニケーション能力を向上させるにはドラマ手法が必要だと思っていることを明らかにした。しかし，初級クラス，中級クラス，上級クラスなどのうちどのようなクラスに導入したほうがいいのか，また，教師の役割はどうなるのか，ドラマ手法を用いることでコミュニケーション能力を向上させるという目的を図れるかなどについては，まだ不明な点が多く，さらなる分析が必要である。

参考文献

秋山朝康（2005)「動機づけ研究の調査方法とその課題点パラダイムの観点から－」『言語と文化』第 18　号文教大学大学院言語文化研究科付属言語文化研究所　pp. 109-117

板井美佐（1997)「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS－上海復旦大学のアンケート調査より－」『日本語教育論集』12 号 筑波大学留学生センター pp. 63-88

板井美佐（1999)「日本語学習についての中国人学習者の BELIEFS一香港城市大学にアンケート調査より」『日本語教育論集』14 号 筑波大学留学生センターpp. 163-179

尹松（2001)「日本語学習者のビリーフについての意識調査－中国首都師範大学の場合－」,『日本語教育研究』41 号 言語文化研究所 pp. 115-129

尹松（2002)「中国における日本語の聴解授業の実態と課題－4 大学の担当教師へのインタビューを通して－」『言語文化と日本語教育 2』3 号　pp. 40-41

袁莉萍（2014「中国の大学における日本語教育の現状－中国南東部の一国立大学を事例に－愛知淑徳大学現代社会研究科研究報告 10 号 pp. 81－93

岡崎眸（1996)「教授法の授業が受講生の持つ言語学習についての確信に及ぼす効果」『日本語教育』89　pp. 25-38

尾崎明人（1998）「コミュニケーション能力の育成」『日本語教育の新たな文脈』国立国語研究所(編）pp. 196-198

河内千春　（2014)『早稲田日本語教育実践研究』2 号　pp. 37-47

惟任将彦（2013)「演劇授業の可能性－ドラマチック日本語コミュニケーションを使って－」WEB 版『日本語教育実践研究報告』 pp. 1-9

品田潤子（2014）「コミュニケーションのための日本語教育－活動に参加して学ぶ，体験を通じて学ぶ－」国際交流基金バンコク日本文化センター　日本語教育紀要　第 11 号 pp. 1-12

杉山ますよ（2014）「演劇的手法を取り入れた活動の可能性」『日本語教育実践研究フォーラム報告』WEB 版　pp. 1-9

副島健作・李郁蕙・武藤彩加　（2012)「日本語力と学習ストラテジーおよび動機づけとの関係」徳島大学国際センター紀要年報　pp. 49-59

外山美佐（1996)「コミュニケーション能力向上のための『相互学習』について－中国上海復旦大学のアンケート結果から－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』11 号 pp. 145-170

田中博晃（2011）「質的研究のための評価基準：KJ 法を用いた動機づけ研究での例」外国語教育メディア学会（LET）関西支部メソドロジー研究部会 2011 年度報告論集 pp. 106-120

谷口すみ子（2001）「第一章　日本語能力とは何か」青木直子・尾崎明人・土岐哲『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社 pp. 21-24